

新 刊 紹 介

太陽観測の新出版物發刊さる

わが「天界」第91號第457頁に記した如く、昨年のライデン會議で決定されたものの中に、太陽表面の種々の観測結果から、太陽活動の状況を要約的に表はした數値を發刊するさいふ一冊條があつて、これは永い以前から黒點相對數を發表し續けてゐるスミス國チウリヒ天文臺長Wブルンナア氏に委囑するこゝなつた。最近、チウリヒから愈々此の種の新しいブレテンが到着した。取つて見るに、表題は BULLETIN FOR CHARACTER FIGURES OF SOLAR PHENOMENA となつて居る。毎號4頁づゝのもので、第1號は1928年一月から三月まで、第2號は同四月から六月まで、第3號は同七月から九月までさいふ風に、3ヶ月づゝの観測結果が毎日及び毎月の平均値が表示してある。内容は、毎號、第一頁がカルシウム羊毛斑の特性値 Character Figures for Calcium-Flocculi であつて、英國ケンブリチ大學其の他の數ヶ所の天文臺で分光太陽寫真儀 Spectroheliograph により撮影した太陽面のカルシウム寫眞を材料とし、羊毛斑の面積や光輝から0(最小)、1, 2, 3, 4, 5(最大)の6級に分けて測つたものである。第2頁は、水素 α 線の羊毛輝斑の特性値 Character Figures for bright H α -Flocculi であつて、大小の分け方は第一頁のカルシウムのこ同様に0から5でこし、イタリア國アルチエトリ其の他の天文臺の報告が用ゐられてゐる。第3頁は、水素 α 素線の羊毛暗斑の特性値 Character Figures for dark H α -Flocculi で、やはりアルチエトリ其の他の天文臺からの観測結果が配列せられ、數値の性質は前2頁こ同様である。第4頁には黒點活動 Sun spot activity こ、紫外線光度こが記されてある。黒點活動の係數こして例の相對數 Relative Number (「天界」第 號第 頁参照)が掲げてあるのであるが、之れを二通りにして其の一は太陽全面に見える黒點の相對數、其の二は太陽の中央部即ち子午線の東西 30° 以内に見える黒點のみからの相對數を掲げてゐる。紫外線の方は、米國キルソン山でペット氏等が1924年に成功した方法により彼

地で續行されてゐる觀測の結果であつて、波長 0.32μ の光度 α 、綠色の波長 0.50μ の光度 β の比を表はしたものであり、單位としては1924年六月の値が採用されてある。

通覽して、太陽研究者のために、又、地球に對する太陽活動の影響を研究する者のために便利なものに違ひない。只、此の上の慾を言へば米國ワシントン府スミソン學院のアボト氏の手で永く連續觀測をしてゐる太陽恒數 α 英國グリニチ天文臺でやつてゐる黒點面積 β 、每日の地磁氣の觀測が附け加へられる γ 好いと思ふ。尙ほ、將來は、キルソン山でやつてゐる黒點磁力の數値 δ 、ノルウェー國スチユルマー氏等のやつてゐる北極光の特性値 ϵ も望ましいものである。

一覽して感ずることは、之れに参加してゐる諸天文臺の天氣が餘り恵まれてゐないこと、今一つは、發行の時日が可なり遅れる（殊に吾々東洋に住んでゐるものにまつて）ことである。此等の點から見る ζ 、やはり、何 η 言つても、我が諏訪の三澤勝衛氏の黒點觀測結果（毎月初めに本會發行のブレテンに載せられるもの）が、迅速で、的確であることが誇らしい！

AMATEUR TELESCOPE MAKING :

Scientific American Publishing Co. (6圓位)

最近に Amateur telescope making の改訂版が發行された。初版のものに比較する θ 頁數が殆んど二倍になつて居る。初版は非常に取急いで發行され編輯上にも種々 ι 手落ちがあつて不完全であつたが殆んど見異へる位に増訂されて居る。第一編はポーター氏の執筆で、

第一章は反射鏡の磨き方に對するポーター氏の短い記事で原文は Scientific American の1926年2月號に出て居る。

第二章はマウンティングの種々の型式に對する説明が出て居る。

第三章は太陽投影に使ふ長焦點反射鏡の設置法。

第四章は硝子の切り方や其他實用向きの種々のヒントが與えてある。

第五章は主として赤道儀の極軸の修正法について。

第六章は度盛環による星の探し方。

第七章は接眼鏡の位置の固定した極軸望遠鏡の各種について。

第八、九章にはプリズムや平面の検査法、或は平面の製作法について書いたもので、平面製作の珍しい記事ではあるが方法の紹介に止まる記事である。

第十章はカセグレン鏡の計算や製作法について。

第十一章は小さなレンズの研磨法について書いたもので此の種の著書は Oxford : lens making for Amateur だけであるから良い参考になる

次はエリソン氏の著書 Amateurs telescope の中から本書の骨子として第二編となつて居る。

第二編の八章には初版に脱けて居た對物レンズの製作法についてエリソン流の實用向きの記事で新しい記事もつけ加つて居る。

第三編は米國標準局の鍍銀法についての記事が集めてある。

第四編は有名な光學者ヘースチングス氏の接眼レンズの設計や説明が出て居る。

第五編は他に例のないもので反射鏡や凹面鏡の研磨機についての説明であるが使用法は書いてない。

第六編はフォード自動車の部分品を使つて組立てた赤道儀。

第七編は初心の入門者にたゞ見ればよいといふ反射鏡の作り方を書いたものである。亂雑な記事であるから其のつもりで讀む必要がある。

第八編は Honey Comb foundation といふ新しい研磨法について。

第九編は太陽の權威者 Hale 氏が太陽の諸現象やスペクトロヘリオスコープについて書いて居る。

第十編は製作法の諸問題についてこのよせ集めで樞、磨等の理論に至るまで集めてある。

最後に天文に關した雑誌、書物、宛名集等、とにかく甚だ面白い集め方をした書物で今までかような特殊記事の入つた光學書物のなかつた爲でもあるが仲々良い参考書の様に思ふ。

然し全般として、反射鏡はたゞ相當に見えるものが出来ればよいといふ事や、素人の種々の質問や、たゞ作つて見たいといふ希望に対するよせ集めで根底の深い書物ではなく、アメリカ流を露骨にしたものゝ様に思ふ。然しこれによつて素人の反射鏡研究家が如何に多く又、凡ゆる方面に研究を續けて居るのが分かる事と思ふ。

第十編の一部に正しい拋物線の影の事について自分が編輯者 Ingalls に送つた記事が出て居るのは恐縮である。(中村)

天 文 同 好 會

例 會 記 事

〔一月例会〕

一月十三日天文分教室で開催された。會場の都合が悪く多少豫定を變更した爲新聞廣告、學内掲示も出来なかつたが、大阪、神戸、天津等の遠方から出席せられた方もあり盛會であつた。先、山本博士は臺灣から歸學せられたまゝ直に演壇に立たれ、山崎彗星を追つて臺灣へ遠征せられた其苦心の狀を御話し下さつた。次に荒木先生は御出發間際の御忙しい時間を割いて御出席下され、種々の面白い譬諭を用ひて天體運動の法則を御説明下さつたので、皆笑ひながら六ヶ敷い法則を一通り理解する事が出来た。

〔二月例会〕

豫定の通り十八日夕七時から樂友會館で開催。新聞廣告もし、又學内掲示も充分であつた爲、百餘人の出席があり、スチームに温りながら先生の御講演を聴き、誠に靜に氣持よく一夜を過した。

山本博士は演題を變更せられ、目下の話題たる、本年五月の日食に就いて、大體三月號の記事の如き講演をせられた。

次いで、中村要氏は、火星の近況なる題の下に、最近に於ける火星觀測者。統一的觀測、特殊光線による寫眞撮影に就き約一時間御話し下さつた。

その後三三、五五集つて快談し九時散會。